

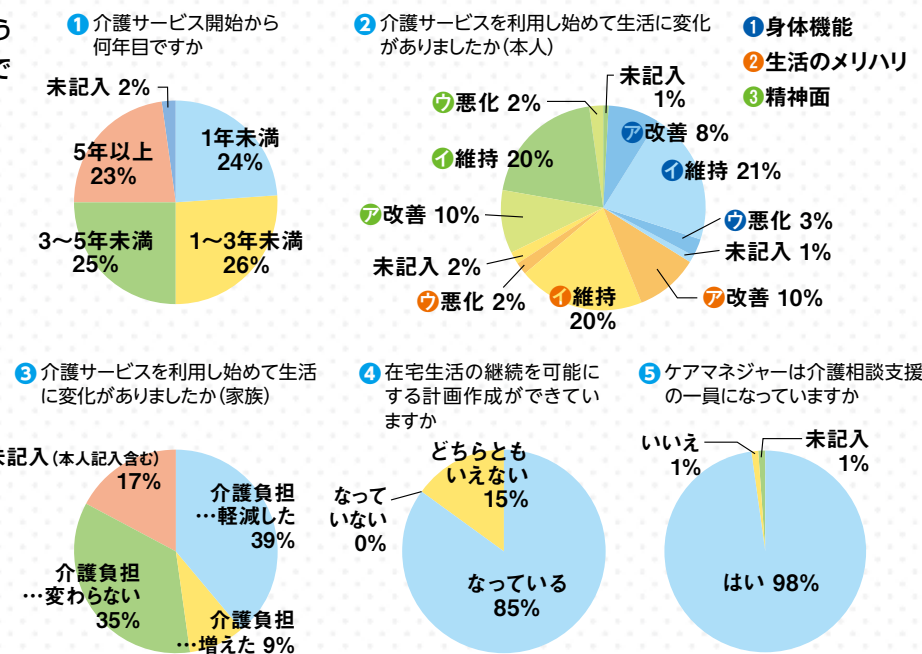
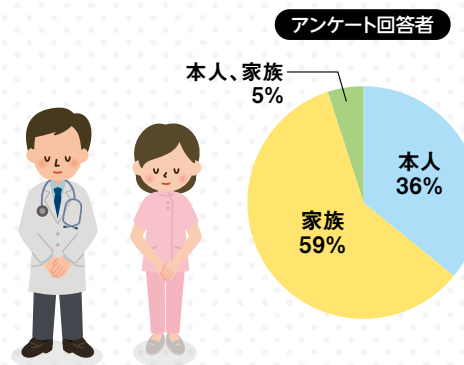


令和3年度 居宅介護支援事業所 利用者満足度調査



満足度調査にご協力頂き、ありがとうございました。結果をまとめましたので報告させていただきます。

アンケート配布期間：令和3年8月～9月
【配付】101件 【回収】88件(回収率：87%)



- 当事業所では、ご本人ご家族の意向を伺い、またサービス事業所や専門家(医師や看護師、理学療法士等)の意見を取り入れ、ご希望される生活が実現できるよう相談、検討しています。
- 介護保険法では、ご本人の自立支援を目的とされており、ご本人が送りたい生活が実現できる、もしくは近づけることを目指しています。
- アンケート結果より「生活の変化」について、身体面・生活面・精神面において「維持」と回答された方が多くおられました。「改善」と回答された方は、身体面、生活のメリハリ、精神面ともに8～

10%の回答で、昨年とほぼ同数でした。「在宅生活の継続を可能にする計画になっていますか」の問いには「なっている」の回答が85%である一方、「どちらともいえない」と回答された方も15%おられました。

● 今後も個性のある“その人らしい”ケアプラン作成に努め、ご本人・ご家族が安心して暮らさることができるよう、事業内容や制度についてご理解頂けるような説明を心がけ、情報提供や思いを引き出す技術を研修会等で研鑽して参ります。コロナ禍が続く昨今ではありますが、皆様のご健康を心よりお祈りしております。

病院機能評価を受審しました

11月17日(水)18日(木)2日間にわたり、病院機能評価を受審しました。

病院機能評価とは、外部の評価機関である公益財団法人 日本医療機能評価機構の中立的、科学的、専門的な見地から、病院の組織運営・管理と、病院が提供する医療について「患者」の視点での評価を受けるもので、患者さん中心のケアプロセスや、医療の質の継続的な改善ができていくかどうかを知る大切な機会となります。

当院では4回目の病院機能評価受審となりましたが、1年以上かけて改善活動に取り組み、2022年12月19日付で認定となりました。



ご紹介



「おちんちんの話」

泌尿器科 診療部長 田中 学

男の子が生まれたご家庭の保護者の方々は、その子のおちんちんの皮をむいてあげた方がいいのか、放っておいていいのか、迷った経験があるのではないのでしょうか。

おしこの出口がある部分が亀頭(きとう)。それを包む皮膚のことを包皮(ほうひ)といい、皮のかぶっている状態を包茎(ほうけい)といいます。

すべての男児は生まれたときから包茎です。包皮の先端が狭くて皮をむきにくい状態です。真性(しんせい)包茎といいます。体の成長とともにおちんちんも成長して皮がむけるようになり、思春期を過ぎる頃には真性包茎はほぼなくなります。そして、亀頭の露出した状態、露出していない仮性(かせい)包茎の状態、あるいはその中間的な仮性包茎(部分露出)、と三者三様となります。仮性包茎は真性包茎と違って、包皮を簡単にむける状態ですので、医学的にはまったく問題ありませんし、日本人に多いと言われています。

私が大学病院の泌尿器科の研修医だった1990年代。おちんちんの先が痛いを受診した男児。保護者はその子の包皮をむいたことがないとのこと。診察すると、包皮が赤く腫れていて包皮炎と診断。包茎なので、包

皮の内面に菌が入って炎症を起こしていると説明。炎症を抑える軟膏を塗って、その場で包皮をむいてあげて(痛いので大泣き大騒ぎになります)、今後は家庭で入浴の時にむいてあげて清潔を保って下さいと指示したものでした。包皮の翻転(ほんてん)といいます。翻転して洗ったあとは、皮をもとどおりにかぶせる必要があります。

このように昔は、小児科や泌尿器科の医師は男児の包皮翻転を積極的に指示していました。家庭においても、保護者がおちんちんの皮を2～3歳くらいからむいてあげることが少なくなかったのではないのでしょうか。

保護者が包皮を翻転してあげる習慣は、真性包茎から脱して清潔を保つことができる利点があるのですが、実はいつのまにか近年は、医師が包皮の翻転を指示することは少なくなってきています。痛い思いをさせて皮をむかなくても塗り薬だけで包皮炎は治療できることがわかってきたからです。時には、包皮の内面に白い垢がたまっているのが透けて見えることもあります。これもあわてて除去するほど不潔なものではないこともわかってきました。

「幼児期から包皮を翻転する必

要はない」。これが現在の医学的な見解です。

そして、「幼児期から包皮を翻転することはお勧めしない」。これが私個人の見解です。幼児の包皮はむかないほうが良いというニュアンスです。

その理由が今回の本稿を書くにあたってのキモとなる部分なのですが、「幼児への包皮翻転の習慣は仮性包茎を助長する」と考えるからです。さきほど書いたように、仮性包茎には程度の違いがありますが、小さい頃から包皮をむいたりかぶせたりを繰り返していると、包皮が必要以上に伸びきってしまっ、おしこの出口が隠れるほど包皮が余った状態になりやすいのではと考えています。

包茎を改善するための習慣が、逆に包茎を助長するという皮肉な結果を招いている可能性があります。医学的に問題はないとはいえ、仮性包茎へのコンプレックスは個人によっては深刻な場合もあります。

過保護よりも放任。思春期になってからの成長や本人の興味に任せおくほうが亀頭の露出につながりやすいのではと考えています。

以上のような、包皮翻転と仮性包茎についての考え方は、専門医の間でもおそらく出てきたことのない話題ですので、参考程度にとどめていただけたらと思います。

NEW FACE

令和4年度
新任医師紹介!

よろしく
お願いします!



内科

杉野 健太 Kenta Sugino

趣味▶剣道、ゴルフ

今年度より吉田総合病院で働かせていただく、杉野健太と申します。卒後4年目で右も左も分からない状態ですが、吉田町の皆様に貢献できるよう一生懸命頑張りますので、御指導・御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



内科

高田 悠太郎 Yutaro Takada

趣味▶ギター、ドラム、映画

医師生活五年目を迎えました。以前は安佐市民病院で勤務していました。専門は呼吸器内科ですが、内科全般を幅広く学んでおります。患者さんのみならず医療者も共に笑いあえる診療を目指しています。よろしくお願いいたします。



内科

長谷川 博司 Hiroshi Hasegawa

趣味▶特になし

この春から赴任いたしました。医師になって5年目とまだまだ未熟ですが、少しでも安芸高田市の地域医療に貢献できるように尽力いたします。よろしくお願いいたします。



外科

志田原 幸稔 Hidetoshi Shidahara

趣味▶バスケット、ウェイクボード

広島大学より参りました志田原と申します。以前は尾道総合病院で勤務しており、また厚生連でお世話になります。地域の外科診療に貢献できるよう一生懸命頑張ります。ご指導のほど宜しくお願い致します。



整形外科

櫻井 悟 Satoru Sakurai

趣味▶映画観賞

4月より整形外科に配属となりました櫻井悟と申します。整形外科一般として地域の皆様に少しでも貢献できるよう、日々精進していきたいと考えております。ご指導の程よろしくお願いいたします。



整形外科

上妻 陽介 Yosuke Kouzuma

趣味▶特になし

4月から赴任となりました整形外科の上妻と申します。以前に三次中央病院や安佐市民病院に勤めていたこともありますが、再度県北の医療のため精一杯頑張らせていただきますので、よろしくお願いいたします。



精神科

山根 桜子 Sakurako Yamane

趣味▶バイオリン

精神科医師として赴任しました、山根桜子と申します。安芸高田市を訪れるのは初めてですが、先日購入した野菜の美味しさに驚きました。経験は浅いですが、地域の医療に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

じょく そう
褥瘡予防

Vol.3 負担を少なく、除圧、ずれや摩擦を軽減する方法!

皆様こんにちは。3回目は在宅でも実践しやすい介助方法を紹介します。同じ部位に持続して圧がかかることで褥瘡の原因になってしまいます。予防するには、定期的に体位変換し除圧する必要がありますが、在宅で1人での介助は介助者の負担が大きく腰痛などの原因になります。また、一人で行うことで身体を引きずってしまい、皮膚の摩擦やずれが生じてしまい皮膚を傷つけてしまいます。そこで、介助を受ける方も、する方も負担が少なく簡単に除圧を行える補助用品の紹介をします。

家庭にあるもので代用もできるので是非実践してみてください。



マルチグローブ

介助者の腕にはめて使用します。
すべる素材のため、スムーズに身体の下に手を挿入し除圧
できます。

使用例

ベッドの背もたれを上げた時、下げた時は皮膚のずれ、摩擦が生じてしまいます。マルチグローブで負担を少なく除圧し、衣服のシワを伸ばす事ができます。



ベッドを上げた後は
背中から腰にかけて
なでるように圧抜き
します。



仙骨部を中心に
圧抜きをします。



片足ずつ手のひらで
包み込むようにして
圧抜きします。



レジ袋で代用も
できます。

褥瘡予防には2時間毎の体位変換が目安ですが、在宅では困難ですよね。

そんな時には、マルチグローブをつけて身体の下に手を入れるだけでも除圧になり、褥瘡予防につながります。褥瘡ができやすい仙骨や踵などポイントで手を入れる方法も良いです。また、身体の下に手を入れ重さを感じながら、どこに圧がかかっているか分かるのでそれに合わせて体位を整えてみてください。

他にも褥瘡予防に役立つ補助用品があり、色々な使い方があります。是非お気軽にご相談ください!